

## 所信表明

皆様、おはようございます。

本日ここに令和8年第5回八頭町議会定例会を招集させていただきましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の中、おそろいでご審議賜りますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

この度の諸議案並びに補正予算案をご審議いただくにあたりまして、私の町政運営に対する基本姿勢と考えについて申し述べさせていただきます。

この度、町民の皆様方からの負託をいただき、町政運営の舵取りを担わせていただくことになりました。改めましてその責務の重大さを感じているところであります。また、町民皆様の負託に応えるべく、本町の発展のために、全力を尽くす覚悟でございます。「20年後も豊かに暮らせる町づくり」をテーマに今回の選挙戦で訴えてまいりました。20年後を起点に考え、10年後、そして今、何が必要なかを考えていく、「あるべき姿」から逆算をして、「今」を考えていく。これがすべての政策に通じる私の政治理念です。経済的な豊かさを実現しようと努力してきた20世紀から、癒やしや人生の楽しみなど心の豊かさも求められる21世紀となり、ここに暮らす全ての人々が「人生の充実」と「楽しさ」を感じられるまちを創り上げていきたいと考えております。八頭町は、合併して20年を超えました。今までの歩みを礎とし、すでに始まっております「第3次八頭町総合計画」、「第3期八頭町総合戦略」を基軸とし、そこから八頭の魅力と、その可能性をしっかりと引き出す、「オール八頭」の精神で地域の発展につなげていきたいと考えています。

しかし、我が国においては、現下の物価高騰の先行きが未だに不透明であり、人々の暮らしや経済活動などに様々な影響が続いています。また、少子高齢化や人口減少社会の進展、デジタル技術など、社会情勢は急速に変化を遂げています。私は、これらの状況を踏まえ、時代の変化や新たな課題に的確に対応することにより、地域の発展を成し遂げ、20年後も豊かに暮らせる町づくりに全力で挑んでまいります。この挑戦を確固たる形にしていくために、私が公約に掲げておりました3つの重点政策に対し、次に述べますとおりに取り組んでまいります。

### 【人口減少対策】

～子育てや移住がしやすい魅力あるまちづくり～

1つ目の柱であります、人口減少対策について申し述べます。

安心して子どもを生み育てるための切れ目ない子育て支援や、全ての子ども

たちが能力を最大限に発揮できる教育に取り組むことにより、未来のまちづくりを担うこどもたちが心豊かにのびのびと育つまちを目指し、次の取り組みを進めます。

まず、保育環境の充実です。働く環境や社会的ストレス、課題は年々増加をしています。八頭町では、「特別利用保育」、保育所の給食費無償化や現場での米飯提供などといった町独自の特徴ある保育環境を維持していくため、または、向上していくため、保育士の確保に努め、保育環境の充実を目指します。

また、妊娠から産後までのケアを伴走支援していく体制を整えたいと考えております。

一昨年になりますが、産後ケアの事業を実施したことがあります。安部駅前の地域交流施設において、民間事業者による産後ケア事業を試行いたしました。5組を想定して、お子さんを預けてもらって、親御さんには、その間、お茶など飲んでゆっくりしてもらおうというものでしたが、当日は、予測をはるかに上回る20組の方がお越しになりました。親御さんにはゆっくりしてもらおうという状態ではありませんでしたが、「産後ケア」の需要の高さを身にしみて感じたところです。こうした経験をもとに、産後のケアを民間にもご協力いただきながら、体制を整えていきたいと考えています。

そして、「婚活支援」にも注力していきたいと考えております。鳥取県が出資する「とっとり出会いサポートセンター・えんトリー」との連携はもとより、この「えんトリー」から派生しました人の手によるお世話いわゆる仲介人型に特化して、イベント開催だけではない、個別対応の婚活支援組織との連携を進めていきます。昨年、民間、地域の皆様のご理解により、この婚活支援組織の「八頭支部」が立ち上がりました。八頭町の特色ある婚活支援を進めてまいりたいと考えております。

また、町内からの転出者に目を向けますと、例年約400人以上の方が町外へ転出されています。その約6割(半分以上)が県内、お隣の鳥取市への転出です。私は、人口減少対策の中心に「住まい」を据えます。まずは、今ある空き家バンクの取り組み、こちらを強化し、本年度は「空き家実態調査」を実施し、更なる空き家の掘り起こしを実現し、UターンやIターン希望者に住まいを提供することで、地域の活性化につなげたいと考えます。そして、旧トスクふなおか店跡地の活用を中心に町有地を活用する等して25年住み続けたら無償譲渡されるような住宅制度の創設に挑みます。移住だけでなく、今住んでいる人の定住も促進してまいります。

## 【地域ケア体制の強化】

～高齢者支援、地域医療が充実したまちづくり～

大きな柱の2つ目は、地域ケア体制の強化についてであります。

通院、買い物、介護、移動手段など、これらは全て地域ケアの一部です。公共交通の利用者は減少し、運転手の高齢化や人手不足も深刻です。今後さらに、高齢者や免許返納者が気軽に通院や買い物をすることができる移動手段の確保が必要となってまいります。

昨年、八東地域で行われたデマンドタクシー(予約制タクシー)の実証結果や、タクシー事業者との協議、そして地域の皆様とも話し合いをしながら、公共交通を補完する「生活交通システム」を構築していきたいと考えております。

そして、買い物支援の声を多く聞いてまいりました。現在、策定を進めております「立地適正化計画」の中で、「ネットワーク型コンパクトシティ」を目指し、地域ごとに拠点をつくり、そこを中心に郵便局や民間の力も借りながら、総合的に買い物支援につながるような施策を進めてまいります。

また、地域医療の安定確保も不可欠であります。将来にわたり持続可能な医療体制を確保するため、「広域連携」を深め、巡回診療などの誘致にも努め、安定的な医療体制を確立いたします。さらに、予防医療の充実にも力を入れます。特定健診受診率向上、予防接種の推進強化に引き続き取り組みます。そして、若い世代が将来を見据えて自らの心身の健康に向き合う「プレコンセプションケア」の普及を進めます。

高齢者福祉については、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう「地域密着型サービス」の仕組みの強化と規制緩和に取り組み持続可能なサービスの提供を実現します。介護予防の推進、地域活動への参加促進、生きがいづくりの支援など、多面的な取り組みも進めてまいります。障がい福祉分野においても、多様性を尊重し、共生社会の実現に向けた支援体制を充実させます。

## 【地域内経済の向上と公共施設のあり方】

～地域産業の再生を図り、経済が上向くまちづくり～

大きな柱の3つ目は、地域内経済の向上についてであります。

地域内で仕事をつくり、地域内で雇用を守る取り組みを進めてまいります。現在、鳥取県東部では、4つの会社で1人の求職者を求めている現状があります。町内で雇用を確保していくことが大変な状況です。そこで、本年度は、隼ラボを核として、地域の持続可能な事業所経営を支援してまいります。具体的には、町内企業と連携した、「大規模な就職相談フェア」の開催、国の制度、「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用した人材確保、雇用確保を目指してまいります。隼ラボもまもなく10年を迎え、これまで起業、スタートアップ支

援を多くしてまいりましたが、それに加え、これからの5年間でスタートアップした企業、今ある企業の支援に力を入れていきたいと考えております。地域経済を下支えするため、商工会との連携も深め、地元高校や地元の地縁者(県外居住者)へのアプローチを一体化してまいります。

また、ふるさと納税を起爆剤に産業振興を図ってまいります。観光協会をはじめ、「ふるさと納税」の専門チームを立ち上げ、農産品・特産品の知名度の向上で「町外」で稼ぐ力の背中を押す取り組みやトップセールでの企業版ふるさと納税で増額を実現し、公共サービスで町民に還元していくという好循環を生み出してまいりたいと考えています。

また、これからは「公共施設のあり方」を考えていかななくてはなりません。合併前からある公共施設が一斉に大規模改修や更新の時期を迎えます。人口が減り、税収が減る中で、すべての施設を今まで通り維持することは難しいです。避難所となる体育館はどうあるべきか、図書館や保育所・小学校の適正規模は。

行政としての案を示しながら、町民の皆様と「対話」を繰り返していきたいと考えています。年1回14地区で実施されていまして「行政懇談会」を各集落や各団体など、より幅広く、多くの方との対話の時間を持ち、一緒に考える町政を実現いたします。

以上、今後の町政運営に当たりまして、私の政治理念や当面の課題などへの対応方針について申し述べさせていただきました。「20年後も豊かに暮らせる町づくり」を目指し、現役世代、企業、高齢者を含めた全ての人々を支える取り組みに全力を尽くし、持続可能な財政運営を基本としながら、新たな挑戦を続けていくため、今度の9月議会で追加し、本年度から挑戦するもの、来年からの予算でチャレンジするもの、短期、中期、長期で実施していくこと等、「施策の選択と集中」を行い町政運営に臨む所存でございます。

議員各位、並びに町民の皆様の深いご理解と、温かいご支援・ご協力を心からお願い申し上げます、私の所信表明といたします。